

こんにちはがんサバイバーまやまます。今日もご視聴ありがとうございます。

私は進行性肺腺がんステージIV、令和3年9月から抗がん剤治療を始めて、今五つめの治療に入っています。この動画では私の最初からの治療の経過をお知らせして同じ病気の方と共有させて頂いて少しでも参考にして頂けたらという想いと、私が信心させて頂いている金光教のすばらしさを少しでもお伝え出来たらと言う想いで発信させて頂いています。

前回夕飯の準備をしているとき電話が入ったという所までお話させて頂きましたが、その電話は病院からでした。昨日淡々と、冷たく(と私には感じられたのですが)殺抗がん剤治療でいきます。と話をされた先生が「冷凍していた検体の方で遺伝子変異が確認されましたので分子標的薬が使えます。明日病院に来てください。」と言われました。私はがん宣言された時も、ステージIVですよ、治りませんよと言われた時も殺抗がん剤で治療します。と言われた時も凄くショックでしたが涙は出ませんでした。でもこの時は大声で独りで泣いてしまいました。嬉しくて嬉しくてたまりませんでした。「神様ありがとうございます。神様ありがとうございます。」とお家の御神前に御礼をしていました。これで体中の細胞を痛め付けなくてすむ、副作用も軽くて済むと本当に嬉しくてたまりませんでした。次の日病院に行くと「治験を受けませんか?」と打診されました。「治験」という言葉は漠然とは知っていましたが良くは分かりませんでした。

先生がいろいろ説明してくださって「入口が大切ですよ、折角最先端の治療を受けれるチャンスがあるのだからやることをお勧めします」と強く勧められました。主人もとても乗り気で私も右も左も分からないまま治験に参加することになりました。そして医大から肺専門の病院に移ることになりました。

今日は治験について少し詳しくお話させて頂こうと思います。私が参加させて頂いた治験は世界で約1000人、日本ではおよそ75の方が参加する治験でした。

治験には参加出来る条件があってEGFR遺伝子変異があること、まだ1回も治療してない事、血液検査の結果が一定の基準を満たすこと等、14項目の参加条件を満たす人でないと参加出来ないということで、血液検査を始め、眼科検査、心電図、脳MRI、CTスキャン、心エコーいろんな病院に行

かされました。そして治験に参加できることが決まり、やっと入院にたどり着いた時にはもう最初の受診から2ヶ月以上たっていました。私が参加させて頂いた治験は三つの投与群に分けられていて一つは日本ではまだ承認されていない二つのお薬アミバンタマブとラゼルチニブの同時投与で1000人のうち約400人の患者さんがこのお薬を使って治療してもらえます。

もう一つは韓国では承認されているけど、まだ日本では承認されていないラゼルチニブが約200名、日本でも承認されて使われているオシメルチニブが約400名と言うことでした。ラゼルチニブとオシメルチニブはどちらのお薬を飲んでいるか分からないように、片方は本物のお薬、片方はプラセボと言って偽物のお薬を二種類飲むらしいです。そしてどのお薬に当たるかはコンピューターがくじをひくらしいです。一つ目に当たらなければ最先端の治療は受けれないと言うことになります。私は一つ目の治療を受けたくて治験に参加させて頂くのとだからどうしてもそのお薬に当たりたいと思って神様をお願いしました。教会にもお届けさせていただいて先生方も祈って下さっていました。

令和3年9月25日に入院したのですが、結果はどうだったかという見事にはずれました。意外とあまりショックではなく、初めての入院で緊張していて右も左も分からない状態だったこともあり、「なんではずれたのかな?残念だなあ。」くらいの気持ちでした。これは後で分かったことですが、一つ目のお薬に当たった人が強い副作用に苦しまれたと知りました。

私は45歳からリュウマチを患っていて色んなお薬で副作用が出ていたので、副作用を考えれば当たらなかつた方が良かったんだろう、神様が守ってくださったんだろうと思わせていただいています。

その日から朝10時に2種類のお薬(一つはお薬ではありませんが)を毎日飲み始めました。ラゼルチニブを飲んでるのか、オシメルチニブを飲んでるのか分からない状態でしたが両方とも分子標的薬だったので1日1回飲むだけだし体中の細胞を痛めつけることもないので気持ちは楽でした。最初の何日かは全く副作用もなく過ぎました。4日目あたりから足に発疹が出始めました。かゆみもありお風呂上がりに保湿剤を体中に塗る様に言われて、べたべた塗りまくりました。

入院 9 日目の血液検査でがんマーカーが36.1まで上がっていてショックでしたが、たいした副作用もなく数日過ぎました。「このまま予定の3週間で過ぎて退院かな?」と思った矢先、入院18日目の夕方から 38 度近く発熱し、解熱剤を処方されました。熱が出ると先生は間質性肺炎を心配されるようです。間質性肺炎はがん患者にとっては一番 心配な副作用のようですぐにそのお薬は使えなくなります。次の日血液検査、尿検査、レントゲン、CT があり特に肺に異常はなく、胸水も減っているしがんも小さくなっているということで薬は継続できる事になりました。入院中は毎日電話やメールで一日無事に過ごさせて頂けた御礼や入院中の出来事などを教会にお届けさせていただき、先生方は毎日いのってくださっていました。

教会では、朝の6時から「朝参り」というものがあります。先生方と一緒に、神様や御霊様に祝詞をあげ、お話を聞く時間です。長男は、当時小4。小3、小1の3人の子どもを連れて、お休みの日には私のために皆で朝6時からの教会の朝参りで私の病気の回復を祈ってくれていました。

長女夫婦は私が入院中、私の回復を祈って、ずっと大好きなお酒を禁酒してくれていたそうです。後で知ったのですが、お酒が大好きな二人には何より大変だったんじゃないかと有難くて涙がでました。

教会の先生方や家族の祈りのおかげで25日目に無事退院になりました。退院してからも発疹が出たり、髪の毛が抜けやすくなったり、また手の皮が薄くなり常に手袋をしていないといけなかったりしました。食べ物の味があまりしなくて、食感もぱさぱさして「美味しい」という感覚があまりありませんでしたし、大好きだったビールは少し頂いただけで体がきつくなるのでほとんど飲まなくなりました。

いろいろあるけどとにかく有難いことだけを考えよう。日々神様や周りの人や物への感謝の気持ちを忘れずに過ごさせていただこうと努めました。

それにしても、体中の細胞を痛めつけないとはいえやはり抗がん剤はいろいろ副作用がきつい薬だなあと実感しました。退院してからは3週間に1回受診して血液検査、レントゲンをして経過をみていただきました。途中アミラーゼの値が高くなって1週間休薬になったりしましたが、何とか年を越すことができました。

退院後、毎回の検診時にはがんマーカーも測っていただきました。入院した時36.1、11月には33.4と少し下がっていたんですが、お薬を飲み続けていたにもかかわらず、12月には86.8、そして1月11日の検診では132.5まで上がっていました。がんも1.2倍に大きくなってしまっていて、ついに3ヶ月半で治験はストップになってしまいました

こんなに早く薬が効かなくなるとは思ってなくて、かなりショックでした。主人と二人、帰りに悲しくラーメンをいただいて帰りました。そしてついに殺細胞性の抗がん剤をすることになり、1月26日にまた3週間の予定で入院することが決まりました。

次回は二つ目の治療についてお話しさせていただきたいと思います。さすが殺細胞性のお薬だけあって、結構厳しい副作用の話とかになると思います。聞きたくない方はどうぞスキップしてくださいね。最後までご視聴くださいましてありがとうございました。がんサバイバーみやままでした。